第6章 公共交通の課題

これまでに把握した築上町の地域特性、公共交通の現状、移動実態・ニーズ等をもとに、築上町における公共交通の課題を整理しました。

【地域特性】

- ●町の北部の沿岸部に平地はみられるが、町域の大部分が山地であり、山地では谷沿いに集落が形成されている。
- ●人口は減少傾向が続いており、今後も人口減少が続くと予測されている。
- ●少子高齢化が進んでおり、2015 年度で高齢化率は 34.3%に達している。
- ●椎田、八津田、築城エリアに人口が集中、これらのエリアの人口密度も高くなっている。
- ●商業施設や医療施設は、椎田駅～築城駅の国道 10 号沿線に集中している。
- ●現庁舎と同じ敷地に町役場新庁舎の建設が計画されている。

【公共交通の現状】

- ●路線バスとコミュニティバスで路線網が形成されている。
- ●路線バスは３路線あり、行橋市方面、みやこ町方面、築城駅と上城井エリアを結ぶ路線が築城駅で接続している。
- ●コミュニティバスは６路線あり、山間部と市街地や、市街地内を連絡している。
- ●町内のみを走行する路線バス及びコミュニティバスの利用者数は平成 29 年度で 26,253 人となっている。
- ●コミュニティバスは利用者一人あたりの財政負担が大きくなっている。
- ●鉄道は、ダイヤ改正により日中の運行本数が１時間１本と半減している。

【移動ニーズ･実態】

- ●通勤は、町内の他、行橋市、北九州市への通勤が多く、９割近くが「クルマ（運転）」となっている。
- ●多くの方が町内の「ルミエール」で買い物をしており、市外では「ゆめタウン」がある行橋市への買い物が多くなっている。
- ●買い物時の交通手段は、「クルマ（運転）」が約８割を占めている。
- ●通院先は、町内の病院の他、町内で対応が難しい場合には、行橋市への通院が多い。
- ●10 代、70 代以上は送迎してもらっている方が多く、送迎してくれる方の９割は「家族」となっている。

【公共交通への評価】

- ●築上町の公共交通全体に関する評価は、満足と感じている方がわずか 7%、満足度は５点満点で、2.6 点と低く、特に運行頻度に関する評価が低くなっている。
- ●交通弱者の 33%は移動手段がないために外出をあきらめており、家族が休みの日でないと外出できない実態がある。
- ●コミュニティバスは、運行頻度、運行時間帯の評価が低く、高齢者はバス停までの移動が大変、寒田地区はバスの運賃負担が大きい、といった問題指摘もなされている。
- ●鉄道は、運行頻度、運行時間帯の評価が低く、鉄道が減便により不便になっている、駅の階段が昇れないため高齢者は鉄道が利用できない、といった問題指摘がある。
- ●将来に対しては、「クルマを運転できなくなり、外出が不便になる」ことに 56%の方が不安を感じており、自治会長のグループインタビューでも同様の意見があげられている。
- ●築上町の住みにくさの理由として交通の利便性の低さがあげられている。

【公共交通への要望】

- ●「コミュニティバス」をはじめとする公共交通は、将来利用が「減る」という回答よりも、「増える」との回答が多くなっている。
- ●免許証返納については 38%の方が返納を検討しており、返納の条件として、コミュニティバスの充実が求められている。
- ●コミュニティバスは、増便の他、ルミエールを拠点としたルートの見直し、寒田地区までの延伸、集落内での運行、新庁舎整備にあわせたルートの見直しなどの意見があげられている。
- ●鉄道については、便数の増加の他、朝・夕の車両の増加、駅での無料駐車場や送迎スペース、エレベーターの整備などの意見があげられている。
- ●その他には、乗合タクシーの導入や、高齢者向けの格安タクシーの導入の他、地域のボランティアによる買い物支援、移動販売の参入促進などの提案も寄せられている。

【問題点】

- 築上町の公共交通に対する評価が低い
- ↓
- 交通利便性の低さが築上町に住みにくさにつながっている
- 交通弱者は外出をあきらめざるを得ない状況にある
- 半数の住民が将来の移動に不安を感じている
- コミュニティバスの運行頻度、ルートと利用者のニーズにミスマッチがある
- 公共交通の運賃負担に町内で大きな格差がある
- コミュニティバスの財政負担が大きくなっている。
- 鉄道の減便により町外への移動が不便になっている
- 駅構内の階段や、駐車送迎スペースの未整備が鉄道利用を妨げている

【課題】

公共交通サービスの底上げと維持

課題①
住民の移動ニーズに応じたコミュニティバスのルート･ダイヤの見直し

課題②
運行効率の改善と町内での運賃負担の不平等感の解消

課題③
公共交通による町外への移動利便性の向上

課題④
公共交通の利用環境の向上